

台風や大雨等に備えて

平成29年8月7日

日高農業改良普及センター日高西部支所

来週、前線や台風の影響が想定されます。

これら、大雨や暴風に対する対策は、作業事故や破損被害を防止するため、十分に余裕を持って対応することが重要です。今後の気象情報に十分注意するとともに、風雨が強くなる前に次の事項を徹底してください。

- ◇ 天気予報等で今後の気象経過に十分な注意をして下さい！
- ◇ くれぐれも作業の安全性を一番に考えて下さい！
- ◇ 無理をせず、作業事故防止を心がけましょう！

1 大雨対策

- 1 水田等では、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い水の流れを確保する。浸水・冠水の恐れがある水田では排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 風雨が強くなってからの用水路の見回りは行わない。やむを得ない場合でも、夜間や単独での行動はしない。
- 3 畑地等では、低地や排水不良地など大雨により滞水が心配されるほ場では、あらかじめスコップ等で、明渠や排水溝へ排水できるよう溝を掘っておく。
- 4 ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等に水が入り込むおそれがある場合は、施設の補修のほか、施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどの対策を行って施設への浸水を防ぐ。
また、ビニールハウス周辺の排水溝が浅くなっている場合は、ハウスのすき床面により低く掘り下げるなどの排水対策を講じる。ビニールハウスのボイラーや移動できる機械類は可能な限り高い場所に移し、浸水を避ける。
- 5 浸水の被害が想定される貯蔵施設は、収穫物を浸水の危険がない場所へ移動する。
- 6 畜産等の堆肥場や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなどを行い河川への流入を防ぐ。
- 7 草地ほ場に仮置きしているロールバール乾草やラップサイレージは、滞水の恐れのない場所へ移動する。
- 8 氾濫する恐れのある河川周辺に放牧している牛は、目の届く放牧地や避難施設など、できるだけ安全な所に誘導する。

2 暴風対策

1 ビニールハウスなど農業施設の補強

- (1) 農舎や畜舎などの屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。
風雨が強くなってからの点検・補修は危険なので、必ず事前に行う。
- (2) 栽培を終えたハウスは、ビニール等はずしておく。
- (3) 既設の防風網は点検整備を十分に行い、突風がおこりやすい場所には応急的に防風網の設置を行う。
- (4) ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。
- (5) ハウスの筋かいが緩んでいればしっかりと締め付けるが、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいが緩むので、ハウス全体の筋かいが均等に締め付けられるように調節する。
また、ハウス中央部に支柱を設置し暴風雨に対するハウス強度を高める。
- (6) ハウスの出入り口、天窓、側窓、換気扇及び側面のフィルム巻上げ部などの開口部が、きちんと締まるかチェックしておく。
- (7) ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく締めておく。
バンドレスの場合は、フィルムを均等に緊張することが難しく、強風でフィルムがバタつくともフィルムが破れやすくなるので、妻側端部及び適当な中間部に防風ネットを張り、バタつかないようにする。
- (8) 被覆資材が破れ、風がハウス内に吹き込むとハウス内の圧力が非常に大きくなり、ハウス全体が大被害を受ける。飛来物によるハウスの破損がないように、ハウス周辺の飛散しやすいものを片付けておく。
- (9) 風が極めて強くなることが予想される場合は、屋根ビニールをはずすなどして風を逃がし、ハウスの倒壊を防ぐ。

2 露地野菜等の被害防止

- (1) アスパラガスの倒伏防止用の支柱などは、追い挿しなどの補強を行う。
- (2) 草丈の低い作物は、べたがけ資材を被覆し暴風に対する被害を回避する。

3 その他

作物が風雨にもまれ損傷した場合は、細菌性の病気が発生する恐れがあるので、薬剤防除ができるよう事前に準備しておく。

なお、薬剤を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、食品衛生法に基づく残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布に心がける。

